

2014 年度事業計画

2014 年 3 月 31 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	1
《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）	
I 2014年度事業計画の策定にあたって	3
II 金城学院大学	4
1 使命・目的	
2 学部・学科の改組	
3 教育支援	
4 受験生の獲得	
5 学生生活	
6 キャリア支援	
7 教育・研究環境	
8 国際交流	
9 社会貢献・地域奉仕	
10 管理運営	
11 施設・設備の充実・整備	
《資料》金城学院大学の将来構想概要	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校	8
1 キリスト教教育の推進	
2 教育力の向上	
3 生徒の受け入れ	
4 施設・設備の充実・整備	
5 国際理解教育の充実	
6 学習・進路・生活指導の充実	
7 生徒支援体制の充実	
8 健全経営の維持	
9 組織力の向上	
《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要	
IV 金城学院幼稚園	14
1 通常保育・預かり保育活動の充実	
2 保護者との連携	
3 新入園児の受け入れ	
4 2015年度入園希望2歳児のためのプレ幼稚園開催	
5 大学、関係団体及び地域との連携	
6 園庭整備と自然の有効利用	
《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要	
V 法人部門	16
1 財務基盤の強化	
2 人材の育成	
3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
4 内部監査の定着化	
VI 予算概要	17
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

創立者であるアニー・E・ランドルフ宣教師とその協力者であったロバート・E・マカルピン宣教師をはじめ、福音主義キリスト教に基づく教育に心血を注ぎ、戦前戦後の苦難の時代を乗り越え、現在に至る金城学院の発展を築いてきた先人たちの労苦を見つめるとき、あらためて生徒・学生に対する「思い」や「愛情」が結果として金城学院を大きく育てたことを知る。金城学院創立120周年を迎えた2009年度に、金城学院として今後6年間の中期計画（後掲参照）を発表し、原点に立ち返るとともに、その深化として「金城学院建学の精神のリバイバル」を基本方針とした。それは、建学の精神に込められた金城学院の社会的責任を果たすことが、ブランド資産を向上させ、優秀な人材（学生・生徒・園児・教職員）の確保と教育力の強化にもつながる。具体的にいえば「キリスト教主義による人格教育の強化」「金城学院の建学の精神を生かした女子教育のさらなる推進」「より具体性を伴った国際理解の充実」を3本柱と考え、その実現のために、中期計画及び事業計画に基づきPDCAを徹底し、健全財政の維持、有能な教職員の確保と育成に努め、地域社会との共生に配慮しつつ、教育施設設備の整備を行うことである。

今日は厳しい時代ではあるが、金城学院は長き伝統をもっており、その伝統とは絶えざる改革の連続でなければならないといえる。このために、金城学院全体の組織・機構について客観的な評価を実施して、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、時に応じて金城学院の枠組みを超えて、他組織、他団体等との提携・共同事業等も調査研究し、今後の予測しがたい社会の変化に対応するように備えなければならない。

2014年度は、2009年度に策定した中期計画の最終年度であることから、中期計画課題の6年間の取り組みを検証しつつその完了を目指す。また、前年度に引き続き2014年度も次のことを事業方針に掲げて取り組みを進める。

（1）教育力の向上

各校において自己評価を推進するとともに、授業評価を教育実践に反映させる枠組みを整備する。また、キリスト教主義教育に基づく広い教養と専門性を兼ね備えることを目的とした女性教育をさらに推進する。

（2）研究の充実

各校の人的資源を有効に活用し、産学官連携の研究活動をはじめ、各校の教育につながる研究活動の推進を図る。

（3）学生、生徒等支援体制の充実

学生、生徒及び園児に対する修学上の支援策を積極的に推し進める。

(4) 地域及び社会への貢献

地域及び社会への貢献策を検討し、地域や社会とともに成長する学院づくりを目指す。

(5) 維持協力会及び寄付者との関係強化

維持協力会及び寄付者の満足度を高め関係を強化する。

(6) 学校法人の組織力・経営力強化

経営主体たる法人の役割と位置づけを明確にし、学校法人の組織力・経営力を強化する。

《資料》金城学院中期計画（2009年度～2014年度）

【通】：通期目標、【前】：前期目標、【後】：後期目標

全 キ リ ス ト 教 主 義 に よ る 教 育 の 強 化	校内礼拝の励行と地域教会との関係強化	礼拝の魅力化 【通】 近隣教会への出席の推奨 【通】 キリスト教関係施設による地域貢献のあり方の調査・研究 【前】
	キリスト教教育の再構築	関係諸団体・組織との連携の強化 【通】 宗教教育の体制整備と陣容の確保 【前】 宗教主事の機能・機構の見直し 【前】
	ボランティア活動の活発化	ボランティア活動の推奨、指導 【通】 ボランティア活動の単位認定の研究 【前】
女 性 教 育 の 建 学 の 精 神 を 活 か し た 推 進	教育力の向上	教養教育の徹底 【通】 女性専門教育の充実 【通】 教育のグローバル化・英語教育の徹底 【通】 魅力的な学部・学科の編成 【通】 中・高・大連携の推進 【通】 教育評価制度の確立と運用 【前】 授業科目の見直し、単位の実質化【後】
	施設・設備の充実・整備	エコ・環境に配慮したキャンパスづくり 【通】 キャンパス美化 【通】 キャンパスの保安体制の確立 【通】 中・高キャンパスの整備 【前】 教育用設備の整備 【前】
た よ り 具 体 性 を 伴 つ た 国 際 理 解 の 充 実	海外関係校との関係強化	教員の共同研究の促進 【通】 留学生の派遣の促進 【通】 留学生の受入れ態勢の整備と受入れ推進 【前】 正規留学生の指導体制の拡充【後】
	留学生との交流促進	国際交流センターの体制強化 【前】 交流の場づくり 【後】

健全経営の維持	的確な財政検証・予測と資金計画	各校・園の規模適正化の研究 【通】 外部資金・寄付金の導入と活用 【通】 資金の有効活用 【通】 予算精度の向上と弾力的運用 【前】 部門別採算制の実施 【前】
	組織力の向上	組織運営の合理化と責任体制の明確化 【通】 業務管理の効率化 【通】 人事・労務管理の適正化と人材の育成 【前】
	入学・入園者の確保と退学者の防止	広報・宣伝体制の整備 【通】 募集業務の徹底 【通】 在校生相談・指導窓口の充実 【前】
地域社会との共生	環境共生モデル地区の造成	里山と大学キャンパスの共存 【前】 八竜地区の活用 【後】
	キャンパスの地域への開放	ランドルフ記念講堂ほか、施設・設備の利用法の見直し 【前】 見せる施設・利用できる施設の活用 【後】
	人財の派遣・提供	ファッション工房の立上げ・サテライト設置構想の調査・研究 【前】 社会人教育・生涯教育などの諸提携・協力実態の調査・検討 【通】 地域ボランティア活動への参画 【通】

I 2014 年度事業計画の策定にあたって

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く社会環境は大変厳しいものがある。また、ステークホルダーを含めた社会が求める教育ニーズは、さらに多様化・高度化してきている。金城学院は、そうしたさまざまな社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、2014 年度も大学から幼稚園に至る各学校において、様々な教育制度の改革や経営の改革を推し進めることとしている。

大学では、社会の多様なニーズに迅速に対応すべく、2012 年度に現代文化学部国際社会学科及び情報文化学科の学生募集を停止し国際情報学部国際情報学科を設置するとともに、現代文化学部コミュニティ福祉学科の学生募集を停止し人間科学部コミュニティ福祉学科を設置した。さらに、人間科学部芸術・芸術療法学科の学生募集を停止し 2013 年度に文学部音楽芸術学科を新たに設置した。2014 年度は、この新たな学部学科構成に基づく 2 年目であり、大学の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、引き続き教

育研究の質をさらに高めるよう教育研究の改善努力をするとともに、質の確保のための学内システムを構築する。

高等学校及び中学校では、数学、理科、外国語及び情報の授業時間数の増加など新学習指導要領に対応した教育課程を整備するとともに、2012年度中学校入学生から入学定員を360名から320名に変更した。2014年度は、高等学校・中学校の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、「自立・自律・連帯」できる女性の育成を目指した教育をさらに進める。

幼稚園では、子育て支援ならびに入園希望者拡大策として2013年度から「預かり保育」事業を開始した。2014年度は、幼稚園の将来構想（後掲）に掲げた教育方針に基づき、入園希望者にとって入園しやすい環境と制度の充実にさらに努める。

法人部門では、2012年度から開始したKMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に基づく設置各学校の教育環境リニューアル計画を推し進めるとともに、2013年度から始めた内部監査制度を定着させる。また、財務基盤の強化と人材の育成をさらに進める。

なお、KMP21においては、2013年度に大学ではN2棟と新礼拝堂を、高等学校では新世光館を竣工させた。2014年度はこれに続き、大学ではN1棟を竣工させるとともに、新W3棟の建築工事を開始する。また高等学校では、希望館の改修を行うとともに地塩館の建て替えを開始する。

II 金城学院大学

18歳人口の減少にともない、大学を取り巻く状況は非常に厳しくなっているが、大学では、「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、知的に鍛えた強さと優しさを兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。特に、本年は金城学院創立125年、大学設立65周年にあたる節目の年であることから、あらためて建学の精神の再確認とその周知徹底につとめる。

また、KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）に基づくキャンパスの大規模リニューアルにより、エラ・ヒューストン記念礼拝堂及びN2棟が新築された。これらの建物をキリスト教教育、共通教育、専門教育に有効に活用していく。具体的には、2014年度も学院の中期計画及び大学の将来構想に基づき、以下の事業を計画し、遂行する。

1 使命・目的

(1) キリスト教主義教育とキリスト教活動の魅力化

建学の精神を学び、理解するために、キリスト教教育の充実を図り、礼拝を中心としたキリスト教活動に学生が積極的に参加できるよう、キャンパスの中心に建築された新礼拝堂とラウンジを利用したキリスト教関連行事を計画し実施する。

(2) 女性教育の理念の再検討

共通教育および専門教育を通じて、強く優しい女性を育成する教育体制を再構築する。

2 学部・学科の改組

総合戦略協議会での協議を重ね、魅力ある学科を立ち上げるべく検討を進める。

3 教育支援

(1) 科目番号制の導入、カリキュラムマップ並びにカリキュラムツリーの作成

2013年度に策定した基本方針に従い、学生にとってわかりやすいカリキュラムの実現を目指して、科目番号制を導入するとともに、カリキュラムマップ並びにカリキュラムツリーを作成する。

(2) 新共通教育カリキュラムの策定

2015年度共通教育カリキュラム改訂実施に向けて、大学教務委員会は共通教育委員会と共に、科目配当責任学科の決定や担当教員の依頼など実質的な作業を行う。

(3) 魅力ある高大接続連携授業に向けての検討

本学における高大接続連携授業を更に魅力あるものとするために、『高大接続連携授業のあり方』を検討する。

(4) アクティブ・ラーニング手法の積極的な導入

アンケート調査を行い本学における実施状況を把握するとともにアクティブ・ラーニング手法の情報共有化を進める。

4 受験生の獲得

(1) 入試5か年計画の推進

2014年度入試の結果を踏まえ、入試関連の諸状況に応じて「5か年計画」に必要な修正を加えて計画を進める。

(2) 質の高い学生の受け入れ

アドミッションポリシーに沿った質の高い学生を受け入れるべく、その方策を検討する。

5 学生生活

(1) アドバイザー制度の効果的運用

アドバイザーと学生生活支援組織（学生生活支援センター、キャリア支援センター、保健センター、障害学生支援協議会、学生相談室、人権委員会等）との連携を促進し、学生に対してより効果的な支援対策を検討する。

(2) 学生組織と協働した学生生活の向上

学生会、サークル協議会と協議する機会を持ち、学生生活の向上の方策を検討する。また、マナー啓発活動やボランティア活動等に課外活動団体の学生らの力を活かし、活性化させる。

6 キャリア支援

(1) 具体的な就職活動支援

本学学生の弱点克服施策として、多くの採用試験で採用されている適性試験の一種である SPI 対策講座及びグループディスカッション対策講座を新設し、採用試験に備える。

(2) 就職活動「後ろ倒し」への対応

就職活動「後ろ倒し」を受け、各種支援行事の開催スケジュール、支援内容等の精査、新設を検討し、効果的な指導体制を整える。

7 教育・研究環境

(1) 学部・大学院を通じたFD活動の充実

大学院のFD活動を充実させるため、学部と同様の制度整備を検討する。

(2) 授業参観導入の準備

一部の学部で導入されている授業参観を、FD活動における有効性を検討し大学全体で実施できるよう準備を進める。

(3) 教員像の検討

2013年度から始まった教員像の検討作業を引きつづき進めて行く。大学の教員像への集約を図るため、2014年度は学科・専攻の教員像の検討結果を全体で共有し、学部・研究科における教員像を議論して決定する。

8 国際交流

(1) 学生の多様なニーズを満たす留学プログラムの見直し

本学学生の留学への意欲を喚起するために、新たな可能性としてファウンデーションプログラム（イギリスやオーストラリアで実施されている基礎教育コース）等への留学プログラムを検討する。

(2) 受入れ留学生支援の充実

受入れ留学生の学習や生活の支援および学内外での交流を充実させるため、留学生会館における RA（レジデント・アシスタント）との交流を通じた支援を充実させるとともに留学生アドバイザー制度の運用を開始する。

9 社会貢献・地域奉仕

(1) ファッション工房の運営

これまで取り組んできた社会貢献事業を検証し、今後の運営のあり方を検討するとともに活動を幅広く広報する。

(2) 地域との交流

守山区との連携を推進するとともに名古屋市との連携を模索する。また、継続して地域の自治会等と話し合いを進める。

(3) 八竜地区の活用

八竜地区が本学院のみならず地域にとっても貴重な財産であることを、学内外に広く周知徹底し、環境教育に資するための活用を促す。

(4) K I D S (Kinjo Infant Development Support) センター設置の検討

子育て支援による地域貢献を推進するためK I D Sセンターの設置を検討する。

10 管理運営

(1) 危機管理体制の整備

緊急時の対応、連絡体制、不測の事態を未然防止するための方策を検討する。特にKMP21の進行にともなう安全対策と避難体制を検討するとともに防災管理委員会と連携し、「災害対策マニュアル」の見直しを進める。

また、受入れ留学生の危機管理について、迅速で的確に対応できる体制を整えるとともに、送出し留学生については、危機管理のマニュアルを作成する。

(2) 実務助手との協働

KMP21にともない事務室の移動等があるが、業務がスムーズに行えるよう実務助手と事務職員が連携して対応する。

(3) 事務職員の人材育成

事務職員の研修制度を検証するとともに新たな資質向上策について検討する。

11 施設・設備の充実・整備

N1棟の竣工及びセンターコート整備によってキャンパスアメニティーを充実させるとともに、新W3棟の建設に着工し、施設・設備の整備を図る。

《資料》金城学院大学の将来構想概要（2009年度～2014年度）

1 「キリスト教主義のもと120年の伝統を有する女子大学」にふさわしく、学生を知的に鍛え「強く優しい」女性を社会に輩出する。

(1) 建学の精神である女子教育の理想を21世紀に相応しく具体化する。

(2) キリスト教主義大学としての魅力を、全教職員の力で学生に示す。

(3) 「強く、優しく。」ということばを大切に、卒業生の伝統を受け継ぎ、ブランド・イメージの構築をはかる。

- 2 本学は教育力で勝負し、他大学からの差別化をはかる。
 - (1) 本学の基本的なスタンスは、「キャリア形成」として教育力を発揮することにある。
 - (2) 学生が学びたくなる/学ばざるをえなくなる教育・学習システムを構築する。
 - (3) 「マナーの金城ルネッサンス」をはかり、洗練されたマナーを持つ学生を育てる。
- 3 既存の学部学科の「改組」により、本学の新しい魅力を打ち出し、新たな受験層を獲得する。
 - (1) わかりやすい学科学部名称、魅力的なカリキュラムと資格課程、職業に結びつくプログラムで専門教育の充実をはかる。
 - (2) 「総合計画」を作成し、その柔軟な運用で大学「改組」を継続的に推進する。
- 4 教育目的に見合った美しい教室と校舎を整備するとともに、キャンパス・アメニティの充実をはかる。
 - (1) 美しい校舎とキャンパスの整備を図る。
 - (2) 教育目的に見合う施設・設備を充実する。
 - (3) キャンパス・アメニティを充実し、「金城生活」の満足度を高める。
- 5 国際交流を進める。
 - (1) 留学生の受け入れと送り出しの中期的な目標の設定をする。
 - (2) 短期の語学研修とは別に、学科の専門を基礎とする海外研修を推進する。
- 6 社会貢献・地域奉仕を進める。
 - (1) 企業からの委託研究、企業との共同研究などが着実に増えつつある。規程等の条件整備を進め、研究面での社会貢献を推進して行く。
 - (2) ファッション工房を支援する。
 - (3) 地域の自治会等と話し合いを進めつつ、地域を対象にした活動に取り組む。
- 7 魅力的な教職員として成長を続ける。
 - (1) 教員の研究環境を整え、FDを充実する。
 - (2) 事務職員の教育機能を評価し、SDを充実する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

愛知県下の2014年度私立中学校の入学試験では、男子受験者の増加は見られたものの女子の受験者数は減少した。本校でも受験者数が微減した。その中で選ばれ与えられた生徒を中学校入学から高等学校卒業までの中高6年一貫教育の下で本校らしい特色のある教育を今年も展開していこうと考えている。

特に、今年が金城学院中期計画締めくくりの年であり、建学の精神に則ったDignity(総合的な学習の時間)の充実・深化を教育展開の軸に据えてきた活動の成果を評価し、次なる計画へとつないでいく年でもある。中学では全学年8クラス体制でスタートする年であり高校では新カリキュラムの中にグローバルな人材育成を目指した「World Studies」(社会と英語の合科)の授業がスタートする。また、ハード面ではKMP21として高校に新世光館が完成したのに引き続き、4月から高校グラウンドに仮設校舎を建て始め、8月からの地塩館解体と新校舎建築に備えていく年である。対外的には第19

回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会在本校を会場として、全国から学校関係者を招き、互いの教育活動を刺激し合うプログラムを計画している。

2014年度は、副校長制のもとで将来構想の検討を開始し、入試とカリキュラムに特化して研究するグループとして校長直属の入試研究部およびカリキュラム研究部を発足させる。ソフトとハードの両面から変えるべきものは変え、守るべきものは堅持しつつ、神を畏れる知恵とキリストにある尊厳・品位を有し国際感覚を持ったピースメーカーと「自立・自律・連帯」できるグローバルな人材を育成するために、次のように事業計画を進める。

1 キリスト教教育の推進

(1) 校内礼拝の充実

年度途中より教室棟（地塩館）が解体され新校舎へと移行するため、仮設校舎でのクラス礼拝と栄光館での講堂礼拝において、生徒の礼拝までの新たな動線が生まれてくる。それによって生じる問題を検討し、新たな礼拝指導を整えていく。これを機に、毎朝捧げられる礼拝が、「主を畏れること」の具体的な行為であると全教職員が意識できる体制を整えていく。

(2) キリスト教教育の構築

キリスト教教育の担い手としての自覚を持って、あらゆる教育活動や学校行事を通して、キリスト教教育をさらに推進していく。キリスト教学校教育同盟を始めとする外部団体主催の役職者・中堅・若手それぞれにふさわしい修養会、研修会等に積極的に参加することを奨励し、キリスト教教育の担い手として教員自ら研さんに努める体制を整えていく。

(3) 教会出席やボランティア活動の励行

地域教会との連携を深め、教会出席の励行、特に伝道週間などの機会には教会出席を督励する。奉仕の精神の育成も、教育の一つとして位置づけ、ボランティア活動を推進する。さらに、学外の特別な機会にボランティア活動をするだけでなく、身の周りの小さなことにも、奉仕の精神をもてるようにする。

2 教育力の向上

(1) 新学習指導要領の実施と改善

高等学校においては「観点別学習状況の評価」について集めた情報の分析および研究を推し進め、他校で行われている絶対評価（目標に準拠した評価）の導入についても研究・協議を行う。

(2) 中高一貫教育の推進

現在、一部の教科・科目で行われている中学での先取り授業の振り返りを行い、その中から先取りも含め組み換えなどを推進するため、中高合同の教科会議での話し合いを促進する。また、効果的な中・高一貫カリキュラム構築の研究を進める。

(3) 中高大連携の推進

進行中の高大接続連携授業の見直し・改善を推し進める。また、各教科・科目における大学との連携（出前授業や授業協力）を中高大教育協議会での話し合いを通じて積極的に推進する。さらに、教育実習を中心とする大学生の中高への授業参加のシステムを促進する。

(4) 授業評価の推進

シラバス構築に伴い観点別評価を組み入れる研究を推進する。PDCAのサイクルでチェックしながら授業評価をさらに推進する。

(5) 自己点検・自己評価の実施

自己点検・自己評価の取り組みを、教科・分掌で目標を絞り、組織的に取り組むようにする。

3 生徒の受け入れ

(1) 第一志望受験生の増加

企画広報室を中心として、本校の教育理念をあらゆる機会を活用して受験者層に周知徹底させ、本校を第一志望とする受験生を増やす方策を検討していく。

(2) 私学協会との協力連携

受験者層の拡大に向けて私学協会と協力して検討する体制を維持していく。

(3) 効果的広報・募集活動の推進

広報・募集活動を点検し、効果的な活動となるよう企画実施する。

(4) 編・転入試験による帰国子女及びキリスト教学校教育同盟加盟校生徒の受け入れ

保護者の海外赴任終了に伴い帰国する生徒の受け皿としての編入試験をおこない、本校の学力レベルに相応した生徒を受け入れる。また、愛知県に1校しかないプロテスタントキリスト教主義女子学校として、キリスト教学校教育同盟加盟校の生徒について転入試験を行い、本校の学力レベルに相応した生徒を受け入れる。

4 施設・設備の充実・整備

KMP21に基づき、教室棟である高等学校地塩館を解体し、新しい校舎を建築する。

5 国際理解教育の充実

- (1) ホップ、ステップ、ジャンプのスリーステップで構成するイングリッシュサマーキャンプ、アメリカ語学研修旅行、イギリスのイートン・カレッジ・サマースク

ールの充実を図る。これらの研修の内容を生徒へ周知させ参加を促す。特にアメリカ語学研修旅行については、学校が運営するプログラムであるという特色を出すために、プログラムの事前学習のさらなる向上を目指す。また、校内選考などの運営方法についても継続的な見直しを検討する。

(2) 大学の留学生など、学内の人材を活用し、高校での国際交流の充実を図る。

6 学習・進路・生徒指導の充実

(1) 学習指導の充実

教育活動グランドデザインで示された学力、特に活用力の中の探求力を、各教科でつけさせる。

教育活動グランドデザイン

Dignity(人の尊厳性)を自覚して

1. 多様な視点から発想する力
2. 課題に対して、適切な問いをたてる力
3. 情報を的確に収集し、それを批判的に分析・評価する力
4. 意見に理由を添えて表現する力

Dignity(人の尊厳性)に基づいて

1. 隣人の立場に立って多様な意見を尊重し、社会正義と平等を志向する姿勢
2. 大切な事に継続的に取り組み、改善する姿勢
3. 社会に貢献し、持続可能で平和な世界を創りだそうとする姿勢
4. 積極的に未来を切り開いていく姿勢

Dignity(人の尊厳性)の認識・理解に立って

1. 各教科の基礎知識の理解と習得
2. 国際理解



(2) 進路指導の充実

①中高大連携の推進

大学での高大接続連携授業による大学単位先取りも継続されており、このほかに高校、中学での大学教員による授業実施、連携プロジェクト授業の実施、更に大学による中高生向けキャリアガイダンスの実施、高1を始めとする「大学オープンキャンパス」参加奨励、本校生への学部・学科の内容理解のための説明会、中学3年生への大学紹介、中高クラブ活動や中学2年一泊修養会にOGとして学生の参加等が中高大教育協議会事業として行なわれている。これらの活動は、中

高生が金城学院大学を自分の進路と考える一つのきっかけとなっており内部推薦率の増加に繋がっている。今後も、「大学入学前指導」なども含め、さらなる中高大の連携を推進していく。

②中学校における進路指導体制の充実

中学3年生での保護者対象進学説明会や生徒対象進学説明会など、進路を考える上での適切な情報提供を実施し、自分に合った進路選択を促していく。また、大学への興味を大いに喚起する方策を中高大教育協議会などに提言し、大学説明会等の内容に反映させることにより、中学からのより確かな進路指導を実現する。

(3) 生徒指導の充実

服装、身だしなみについて「品位あるふるまい」が自然に身につくように、特に公共交通機関内でのマナーとエチケットについては重ねて指導し、生徒の校内外での礼儀作法を建学の精神に基づき指導していく。また、生徒自身が社会とのつながりを体感できるように文化祭、体育祭等における被災地への支援活動や近隣地域に貢献する活動を行えるように指導していく。

7 生徒支援体制の充実

管理職を含め、相談室担当教員、生徒支援担当教員（専任のスクールソーシャルワーカー）、スクールカウンセラー（常勤と非常勤各1名）、保健室が連携し、チームとして各学年会との連携を強化する。具体的には、発達段階に応じ、いじめ対応、不登校対応、特別支援対応等について状況の変化に即した対応をしていく。

また、中高合同で実施しているケース会議、ケースカンファレンス、保健室と相談室の引継ぎをより充実させる。なお、ケースカンファレンスにおいては中高と大学との連携を継続する。

8 健全経営の維持

(1) 中高の規模適正化の研究

2012年度から始まった8クラス体制への移行で生ずる財政状況の変化を把握し、他校との比較調査等を行い、人事を含めた適正化を検討する。

(2) 独立採算責任制の検討

中学校及び高等学校の帰属収支の改善策を検討する。

9 組織力の向上

(1) 人材育成

役職者・中堅・若手をそれぞれにふさわしい修養会、研修会に派遣し、情報収集を図る。そして現状分析と問題提起を行い解決していける人材を育成できるよう体制を整える。学内的には入試とカリキュラムという学校の中心課題に向き合うこと

を通して将来を構想するグループとして校長直属の入試研究部およびカリキュラム研究部を新たに発足させる。

(2) 事務局機能の向上

中学校及び高等学校の各事務室の業務を標準化するとともに、教員との連携を通じて生徒支援機能を向上させる。

(3) デジタルデータの管理

デジタルデータの一元管理を推進する。

《資料》金城学院高等学校及び金城学院中学校の将来構想概要

(2009 年度～2014 年度)

1 キリスト教主義による教育

(1) 校内礼拝の励行

現行の維持と常の見直し、近隣教会への出席の勧め

(2) キリスト教教育の再構築

関係団体・組織との連携・維持、中高一貫の更なる検討・実施

(3) ボランティア活動指導・推進

一層の指導・推進

2 女子教育の推進

(1) 教育力の向上

中高大連携の推進：中高大教育協議会への協力、中高連携の一層の推進“Dignity”を柱にして（自立・自律・連帯）、中高の学科選択性の促進、クラスサイズダウンの検討

(2) 施設設備の充実・整備

環境に配慮したキャンパス整備、校内美化の推進、校内生活・教育の充実のための施設の整備、安全・安心の確保

3 国際交流の充実

(1) 海外提携校との関係強化

語学研修の常の見直しと充実（アメリカ、国内）、オーストラリア提携校の関係継続、韓国姉妹校との関係継続

(2) 外国人による授業実施

中高における英語教育のあり方構築、外国人英語講師の採用

4 健全財政の維持

(1) 中高規模の最適化の研究

運営の適正規模の研究、組織運営の合理化と責任体制の明確化、人事・労務管理の適正化と人材育成、事務管理の効率化

(2) 独立採算責任制の実施

予算精度向上のための事業計画立案、決済（決裁）制度のあり方構築、予算の弾力的運用のあり方検討

(3) 入学生徒確保と退学防止

企画広報の体制整備、募集業務の徹底、外部資金導入方途の検討

IV 金城学院幼稚園

幼稚園創設の理念を大切にしながら、子育て世代のニーズに即した取り組みを柔軟に取り入れ、恵まれた環境を活かしながら魅力ある幼稚園を目指す

また、子育て支援において、幼稚園がどのようなサービスを提供すべきかについてを2014年度も学院との検討の中で深めて行き、地域や入園希望親子の支援と募集力強化に繋げていく。

キリスト教保育連盟の2014年度主題聖句「わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」(創世記第28章15節後半)に基づき、年度主題「あふれる愛—これからもともに—」を掲げ、次の4点を中心に事業を計画し遂行する。

- (1) 保護者、保育者、友だちの愛情を受け、安心してその子らしく成長できるように援助する。
- (2) 愛され育つ中で、神と人とを愛し尊ぶ心を養う。
- (3) 神様から頂いている力を活かし、発達段階に沿った経験が出来るように援助する。
- (4) 縦割り保育を通し、年下の子を思いやることや年上の子への憧れを育み、互いにそのよさを認めつつ育ちあうように導く。

1 通常保育・預かり保育活動の充実

教育カリキュラムを教諭間で十分検討し、自由活動、クラス活動、各年齢別活動をリンクさせながら一貫性を持たせ、保育を充実させていく。

また、2年目を迎える通常保育後の教育活動としての預かり保育内容を更に充実させるとともに、保護者のニーズに即して提供できるよう取り組みを進める。

2 保護者との連携

(1) 保護者の保育参加

保育参観ではなく保護者が保育に参加する機会を設け、開かれた幼稚園としての機能を果たす。また、他有志を募集して参加させ、保護者の負担軽減を図る。

(2) 園長及び教諭との懇談と子育て支援

保護者による送迎の利点を活かし、個人懇談会や降園時の担任との懇談、必要に応じては園長との個別懇談の機会を設けるなど、子育て支援体制を整える。

3 新入園児の受け入れ

(1) 入園願書配布の見直し

昨年度に引き続き、幼稚園理解としての見学と体験会を充実させ、入園願書を希望する全員に配布するなど、出願しやすい環境を整える。

(2) 幼稚園広報の充実

募集力強化につながるよう見学会や説明会を更に充実した内容としていく。また講演会などの内容や配付物などを見直すとともに、幼稚園ホームページから幼稚園の情報を分かりやすく詳しく知ることができるように充実させる。

4 2015年度入園希望2歳児のためのプレ幼稚園開催

昨年度行った親子教室をプレ幼稚園として開催し、更に充実したものにしていく。対象は次年度の入園希望親子とし、毎月一回程度前期4～5回のプログラムで行う。幼稚園体験と子育て中の母親の相談や交流の機会とし、幼稚園理解や入園に繋げていく。

5 大学、関係団体及び地域との連携

引続き、大学や幼稚園連盟及び協会、キリスト教保育連盟などの関係団体との連携を強化し、地域社会のニーズに沿った次の3点の活動を推進することで、更に地域との交流を促進する。

- ① 大学との連携による子育て支援活動の拡充
- ② 地域の中学生及び高校生の職場体験学習の受け入れ
- ③ プレ幼稚園の開催及び未就園児保育の拡充

6 園庭整備と自然の有効利用

自然の中にある恵まれた教育環境と、魅力のある園庭作りを続け、それを十分に活かすことが出来るように今後も手入れや整備を行っていく。また同時に、遊具や設備の安全点検を定期的に行う。

《資料》金城学院幼稚園の将来構想概要（2009年度～2014年度）

1 預かり保育の実施

園児と小学生を対象に園の保育方針に沿った内容で「預かり保育＝教育課程に関わる教育的時間の終了後に行う教育的活動」として、造形教室・ハンドベルクワイアの二つの活動を行ない、その他についても内容を吟味・検討しつつ取り組んでいく。

2 施設及び園庭の貸し出し

現在、保育後30分間の園庭開放を行っているが、今後、地域を対象に必要なに応じて実施していく。

3 0、1、2、3歳児への親子教室開催

子育て支援活動として、兄弟関係の希望者を対象に行っていく。

4 満3歳児保育（兄弟関係の希望者対象）

現在は入園希望者を対象にして「見学」の形で行っており、入園決定者にはその後3回程度、親子の保育体験と保育方針についての説明会を行っているが、今後、対象者を拡げて「子育て支援」としての実施を考えていく。

5 保育学会及び外部団体に対する貢献を通し、広報活動の展開

幼稚園の使命を自覚して、広報活動を通して連携・連帯を求めていく。

6 環境整備の充実

実のなる木々が生え小鳥や昆虫などの生息しやすい環境が整っている園庭及び周辺の雑木林を、ロープ遊具や築山、子どもたちの遊び場づくりなど、安全で創造力を豊かに育む場として整備する。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革を推進することを、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画及び事業方針に基づく法人部門の2014年度事業計画としては、次の4点を掲げる。

1 財務基盤の強化

財務基盤の安定のため、各校における学生・生徒・園児募集力の強化、学生・生徒・保護者の満足度向上を図り退学率を一層低く抑え、主たる収入としての学生生徒等納付金を安定的に確保する。また外部資金として、補助金、事業収入等の増加及び資産運用収入の安定的確保を目指す。一方、支出面では、効率的な学院運営を図り経常経費の抑制に努めるとともに、人件費の適正化を目指す。

2 人材の育成

学校法人を取り巻く経営環境が厳しくなり、激しい競争に晒される状況において、人材育成は、各校における教育力及び生徒学生指導力の向上、KMP21など施設・設備投資戦略の推進、生徒学生募集力の維持・強化、健全経営の維持を柱とする経営戦略を、高い次元で推進するために必要不可欠であり、これを達成するための人材育成を推し進める。

3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

大学第1フェーズの本体工事が引き続き実施され、解体・外構整備までを含めた完成は、12月を予定している。また、理事会の下に設置したKMP21推進室およびその下部機関として設けた2つの建築委員会を中心に、大学第2フェーズ及び高等学校新校舎の実施設計を実施・完了し、大学第2フェーズは10月に、高等学校新校舎は8月に本体工事に着工する。

工事の実施においては、安全かつ予定通りの工事実施を目指す。

4 内部監査の定着化

2013年度内部監査による改善指摘事項への対応状況をフォローアップ監査するとともに、リスクの高い項目を再度洗い出し、内部監査計画を更新し、効果的な内部監査を実施する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

2014年度予算編成は、6カ年にわたる中期計画（2009年～2014年）の最終年度であることから改めて政策全体を見渡し、計画完遂に向けて配慮したものとする。

具体的には、以下の編成方針に基づき、必要かつ妥当と判断された計画の採択を原則とする。

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員100%、退学・休学想定率2%とする。補助金収入は、前年度実績の90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

健全財政の確保を目的として、2014年度の継続経費は、「2012年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、2013年度に引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

(3) 帰属収支及び繰越支払資金

KMP21(金城学院キャンパスマスタープラン)に関連する収支を除いた予算で、2014年度において帰属収支差額比率10%の確保を目指す。また、2014年度繰越支払資金は10億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2014年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	主な事業内容	予算額
KMP21 関連事業	・大学N1棟建設（第1フェーズ） ・大学新W3棟建設（第2フェーズ） ・高等学校新校舎建設	5,279,000
防災対策 強化事業	・アニー・ランドルフ記念講堂天井耐震工事 ・大学体育館天井耐震補強工事 ・防災備蓄用品購入	270,000

I T 関連事業	(大学) ・履修登録, 成績登録用サーバ更新 ・パソコン整備・補充 ・図書館 AV コーナー設備更新 ・CALL 機器設置 など	30,000
	(中学校・高等学校) ・図書システム更新 ・部屋予約システム更新 ・パソコン更新 など	40,000
修繕事業	(大学) ・アニー・ランドルフ記念講堂内部改修	135,000
	(幼稚園) ・屋根改修工事 ・外壁工事	31,000
広報事業	・新聞広告掲載 ・鉄道額面ポスター掲出 など	72,000
その他	・緊急特別就職支援策 など	151,000
合計		6,008,000

